

2 年次選択科目 整形外科臨床研修プログラム

1. 研修施設

獨協医科大学病院

2. 研修期間

1 か月～6 か月

3. 指導体制

指導責任者： 種 市 洋 教 授

主任指導医： 稲 見 聡

4. 研修目標

国民の愁訴のうち多い順に3つあげると腰痛、肩こり、四肢関節痛であり、全て運動器に関連したものである。整形外科が扱う運動器疾患に対する正しい理解が国民の健康増進に必須であるという認識のもとに、日本整形外科学会の推奨する研修プログラムにのっとり、運動器疾患・外傷を的確に診療する技能を修得し、運動機能障害をもつ患者に対する思いやりを養う。

◎ 研修期間 1～3 か月の到達目標

○ 研修期間 4～6 か月の到達目標

救急医療	一 般 目 標 (G I O)
	運動器救急疾患・外傷に対応できる基本的診療能力を修得する
	到 達 目 標 (S B O)
	◎多発外傷における重要臓器損傷とその症状を述べることができる ◎骨折にともなう全身的・局所的症状を述べることができる ◎神経・血管・筋腱損傷の症状を述べることができる ◎脊髄損傷の症状を述べることができる ◎多発外傷の重症度を判断できる ◎多発外傷において優先検査順位を判断できる ◎開放骨折を診断でき、その重症度を判断できる ◎神経・血管・筋腱の損傷を診断できる ◎神経学的観察によって麻痺の高位を判断できる ◎骨・関節感染症の急性期の症状を述べることができる

	一 般 目 標 (G I O)
	適正な診断を行うために必要な運動器疾患の重要性と特殊性について理解・修得する
	到 達 目 標 (S B O)
	<p>慢性疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎脊椎変性疾患、脊柱側弯症、変形性関節症、関節リウマチ、骨粗鬆症、骨腫瘍の自然経過・病態を理解する ◎上記疾患のX線、CT、MRI、造影像の解釈ができる ◎上記疾患の検査、鑑別診断、初期治療方針を立てることができる ◎腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる ○関節鏡検査、関節鏡視下手術の意義を理解できる ○人工関節の意義と適応、ならびに合併症予防に必要な対策を理解できる ◎理学療法の処方が理解できる ○手術後の運動療法の重要性を理解し、適切に処方できる ○一本杖、コルセット処方が適切にできる ◎病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる ○リハビリテーション・在宅医療・社会復帰などの諸問題を他の専門家、コメディカル、社会福祉士と検討できる

	一 般 目 標 (G I O)
	運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を修得する
	到 達 目 標 (S B O)
	<p>基本手技</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎主な身体計測（関節可動域、徒手筋力テスト、四肢長、四肢周囲径）ができる ◎骨・関節の身体所見がとれ、評価できる ◎神経学的所見がとれ、評価できる ◎適切なX線写真の撮影部位と方向を指示できる ○一般的な外傷の診断、応急処置ができる <ul style="list-style-type: none"> (1) 成人の骨折、脱臼 (2) 小児の骨折 (3) 靭帯損傷 (4) スポーツ外傷 (5) 神経・血管・筋腱損傷 (6) 脊椎・脊髄外傷 (7) 開放骨折、四肢挫滅、切断 ○免荷療法、理学療法の指示ができる ○関節造影、脊髄造影を指導医のもとで行うことができる ○神経ブロック、硬膜外ブロックを指導医のもとで行うことができる ○清潔操作を理解し、創処置、関節穿刺・注入、直達牽引、小手術ができる ○手術の必要性、概要、侵襲性について患者に説明し、コミュニケーションをとることができる

医療記録	一 般 目 標 (G I O)
	運動器疾患に対して理解を深め、必要事項を医療記録に正確に記載できる能力を修得する
	到 達 目 標 (S B O)
	<input checked="" type="checkbox"/> 運動器疾患について正確に病歴が記載できる 主訴、現病歴、家族歴、職業歴、スポーツ歴、外傷歴、アレルギー、内服歴、治療歴 <input checked="" type="checkbox"/> 運動器疾患の身体所見が記載できる 脚長、筋萎縮、変形（脊椎、関節、先天異常）、関節可動域、徒手筋力テスト、反射、感覚、歩容、日常生活動作 <input checked="" type="checkbox"/> 検査結果の記載ができる 画像（X線、MRI、CT、シンチグラム、ミエログラム）、血液生化学、尿、関節液、病理組織 <input checked="" type="checkbox"/> 症状、経過の記載ができる <input checked="" type="checkbox"/> 検査、治療行為に対するインフォームド・コンセントの内容を記載できる <input checked="" type="checkbox"/> 紹介状、依頼状を適切に書くことができる <input checked="" type="checkbox"/> リハビリテーション、義肢、装具の処方、記録ができる <input checked="" type="checkbox"/> 診断書の種類と内容が理解できる

5. 経験が望まれる症状・疾患

- ◎ 研修期間 1～3 か月の目標
- 研修期間 4～6 か月の目標

(1) 症状

- ◎骨折・脱臼の局所症状
- ◎関節痛
- ◎腰痛
- ◎歩行障害
- ◎四肢のしびれ
- ◎四肢の循環障害
- ◎四肢、脊柱の変形
- 関節の不安定性
- ◎骨・関節感染症の急性症状

(2) 疾患

- ①成人の外傷
 - ◎多発外傷
 - ◎四肢の閉鎖骨折
 - ◎四肢の開放骨折
 - 手の挫滅、切断
 - ◎四肢関節の脱臼
 - ◎靭帯損傷（膝、足関節）
 - ◎脊椎の骨折・脱臼
 - ◎脊髄損傷
 - 末梢神経損傷

- 筋・腱断裂
- ②小児の外傷・疾患
 - ◎若木骨折
 - 骨端離開
 - 上腕骨顆上骨折
 - 肘内障
 - 先天性股関節脱臼
- ③感染症
 - 骨髓炎
 - 化膿性関節炎
- ④関節疾患
 - 関節リウマチ
 - ◎変形性関節症
- ⑤骨疾患
 - ◎骨粗鬆症
 - 骨壊死
- ⑥骨・軟部腫瘍
 - 骨肉腫
 - ◎転移性骨腫瘍
- ⑦脊椎疾患
 - ◎椎間板ヘルニア
 - ◎脊柱管狭窄症
 - ◎脊柱側弯症
 - 靭帯骨化症
 - ◎脊髄症
 - 脊髄腫瘍

6. 週間スケジュール

	午前	午後	夕方以降
月	教授外来・クルズス	手術・病棟	自由研修
火	関節外来	手術・病棟	自由研修
	手術・病棟	手術・病棟	
水	手外来	手術・病棟 Dokkyo Orthopaedic Seminar	連絡会、抄読会、 リサーチカンファレンス
	カンファレンス		
	教授回診		
	手術・病棟		
木	関節外来	手術・病棟	自由研修
	手術・病棟	手術・病棟	
金	脊椎外来	手術・病棟	自由研修
	手術・病棟	手術・病棟	
土	外来	自由研修	

手術は曜日により、脊椎、関節、上肢手術の予定がある。